

# 2024年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
発展途上国の障がい者福祉・医療の現状を知る	Bコース

学生情報	
氏名	吉田萌
所属学部・研究科	医学部医学科
学年(出発時)	3年

渡航先情報	
渡航先	アクラ(ガーナ)
渡航先滞在期間	2024年8月13日 ~ 2024年8月26日
訪問先機関等	Presbyterian Medical Center
訪問先機関での身分	インターン

渡航概要と内容
<p>Presbyterian Medical Centerにて、公衆衛生と医療のインターンにそれぞれ1週間ずつ参加した。公衆衛生プログラムでは、アウトリーチ活動として現地のマーケット・病院周辺の住宅街にて健康チェックを行った。具体的には、活動場所にて現地の人々に声をかけ、血圧測定・血糖値測定・マラリア検査・B型肝炎検査を行ったうえで問題があれば健康指導を行った。また現地での自発的な活動として、麻疹についてのプレゼンテーションを作成し、現地で発表した。公衆衛生プログラムを通して日本とガーナにおける健康問題・健康意識の違いに触れ、深刻な高血圧や糖尿病を有するガーナの現状をどう改善すべきか考えるきっかけとなった。医療プログラムでは診療や治療を見学した。インターンを行った病院はプライマリ・ケアを提供する医療機関であったことから、より現地住民の健康問題に関連した疾患に対する診療を見学することができた。小規模の病院である一方で、アフリカの中でも発展しているガーナの都市郊外にある病院であることから、医療は予想していたよりも充実していた。一方で、衛生管理の不十分さ、医療者の労働意識の低さ、処置技術の低さなど問題点も垣間見えた。また現地の医療者とディスカッションを進める中で、健康問題の根底にある生活習慣・文化など地域特有の問題についても考えた。その他病院外の活動として、障がい者施設への訪問を通して現地での福祉の現状を知りたいと考え、エージェンツ側にリクエストをしていたが、現地渡航後、施設が休暇に入っていると伝えられ、訪問は叶わなかった。</p>
渡航により達成できたこと
<p>今回の渡航を通して、プライマリ・ケアを担う病院を訪問したことで地域特有の健康問題・医療体制の問題に触れることができ、発展途上国において改善すべき医療問題を考えることができた。血圧測定・血糖値測定・マラリア検査・B型肝炎検査など簡易的な医療検査を行うことができた。またその結果を踏まえて現地の人々に高血圧や糖尿病に対する健康指導をすることができた。世界で麻疹が流行していることからワクチン接種を確実に行うことの重要性を啓発するため、現地で麻疹に対するプレゼンテーションを行った。渡航前の事前学習を含め、病院で医師と会話を交わす中で医学英語のレベルを上げることができた。現地の人々と英語でやり取りをすることで、英語を用いたコミュニケーション力を高めることができた。</p>

### 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

渡航を通じて現地の医療について感じたのは教育の重要性である。ここでいう教育とは、医療者への教育だけでなく、一般の人々への教育も含む。まず医療者の教育について、必要最低限の医療が提供できていると述べたが、これはあくまで最低限のものであり、衛生面ではまだまだ改善の必要があると感じた。注射や点滴時の針の扱いなど、血液感染が危ぶまれる医療処置が多くあり、感染症を引き起こす根本原因の一つとして医療者の教育不足があるように感じた。一般の人々に対する教育では、特に性教育が遅れていると感じた。ガーナでの一般的な避妊方法は女性のインプラントまたは注射であり、コンドームの使用は一般的ではない。そのため若年妊娠が多く、性感染症も蔓延している。性教育を推進し、family planningの理解を深める必要があると感じた。また、生活習慣への関心も低く、塩分の多い食事や野菜が少なく炭水化物が多い食事をしているため、糖尿病や高血圧が深刻である。そのような生活習慣病を予防するために人々の健康意識を高める必要があると感じた。

### 今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今回の経験を通して、将来途上国の医療協力をしたいという目標が確かなものとなった。今回は福祉の現状を知ることはできなかったが、医療・福祉両方の側面から、そのときのニーズに応じた医療の提供や教育ができるようになりたいと感じた。また、海外で他国の医療に貢献するにはより自分の英語力を高める必要があると再確認した。当然であるが、英語を用いて医療を行うにはネイティブ同様のコミュニケーション能力と医学英語の知識が求められる。そのためこれからの学習では、英語で医学を学ぶなど、普段の学習から意識して医学英語に触れていきたい。

### この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

この事業を利用することで、自分の興味のままに世界中の現状を見つめることができます。そして学生のうちに世界を見ることで視野が大きく広がります。私自身、この渡航を通して様々なものの考え方に触れ、多様な価値観に対応できるようになりました。また、世界中の様々な人と関わることで自分のモチベーションが必ず上がります。この事業での渡航を考えている皆さんは、なにかにチャレンジしたい、という大きな可能性をもっています。その直感を信じて、ぜひ世界に飛び立ってほしいと思います。やらない後悔よりもやる後悔！みなさんのチャレンジを応援しています。

### 計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	305,000円
海外旅行保険	7,140円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	294,000円
宿泊費	学費に含まれる
光熱費	学費に含まれる
食費	学費に含まれる
その他	70,000円
合計	676,140円